



小川華歩(14歳、ルルベ・バレエ・アカデミー)ジュニア部門銀メダル受賞 Photo by Siggul/Visual Arts Masters.

今月号の日本語ページでは、ニューヨークで三月下旬に開催されたユースアメリカグランプリの決選についてお伝えします。

講評：
エマ・マニング

翻訳：
長野由紀

ニューヨーク・シティ・センターで行われた今年のユース・アメリカ・グランプリ決選は、20名が出場してのジュニア部門(12~14歳)女子で幕を開けた。目を見張るほどの技術的な強さを示した出場者もあり、その勇気と献身的な姿勢に対しては、拍手を贈らずにはいられなかった。反面、これは今年に限ったことではないが、明らかに身体能力の限界を超えた無理な動きが何人かに見られたのは残念だった。

課題曲の選択にも年ごとに流行りすたりがあつて面白いが、今年多かったのは金平糖の精だ。逆にこの年齢グループでエスメラルダのヴァリエーションを選んだのは一人だけだったが、極端にエクステンションを強調するあまり、芸術性の入り込む余地のないものになっていた。他に人気が高かったのは、アルレキナーダ、サタネラ、グラン・パ・クラシック、そして定番とも言えるドン・キホーテ、黒鳥、ディアナとアクティオンといったところ。難度の高いディアナのヴァリエーションを踊ったケネディ・カワイリゲットと芥実季は、いずれも出だしの大きくスプリットしたパンシェを驚くほどやすやすとこなして、このカテゴリーのトップ12に入った。最年少の阿部夏香はアルレキナーダのソロをととても端正に踊り、またアレグザンドラ・パーソンズとイザベラ・ラ・フルニエールはラ・バヤデルを巧みにこなした。韓国から出場したハン・デル・オーとスーン・アンはそれぞれ流れのよい黒鳥、サタネラのヴァリエーションを踊った。特にアンは、音楽のトラブルで二度もスタート位置から袖に戻されながら、終始落ちていたのが印象的だった。またタリア・ケスラーも、テープ音量が大きすぎるアクセントをものともせ

ずパキータを踊りきった。

この部門の入賞者は、ドン・キホーテでの対角線上の回転技が印象的だったミコ・フォガーティが銅メダル、黒鳥で目にもあやな三回転を見せた小川華歩が銀、そして小柄で親しみやすい個性の持ち主で、無益な用心のヴァリエーションで見事な開脚の大きなジュテをはじめ、傑出した力量を示したリア・クリスチャンソンが金メダルだった。

ジュニア男子には10人が出場。最初の演技者の玉川貴文はじつに魅力的で、グラン・パ・クラシックをこれほど澁刺と踊れる地球上でもっとも小柄な存在であることは間違いない。銅メダルはダビッド・ナバロ・ユデス(スペインからこのコンクールに出場した、全部門を通じてたった二人のうちのひとり)、そのドン・キホーテはカミソリの鋭さだったが、やや演技過剰。一方銀メダルを受賞した出野佑都は、やり過ぎることなくスタイリッシュだった。金メダルを勝ち取ったのは、アルレキナーダのヴァリエーションをみごとに踊ったデレク・ダン、そしてジュニア部門グランプリは、 Coppélia のヴァリエーションですばらしい回転を見せた男子のサム・ザルディヴァーが受賞した。

シニア部門(15~19歳)の女子は20名が出場したが、前半に踊った年齢の低いグループの水準が後半の出場者よりも勝っていた印象を受けた。15歳の5人が全員トップ12に入ったが、特にライモンダを踊ったシャン・ヤオ・キアンはずば抜けていて銅メダルを受賞。アリス・シーのグラン・パ・クラシックも、スタンダードな振付とは少々違っていたが、技術的にはたいへん完成されていた。一つ年上の生き生きとしたナタリー・クラキアンは目を引き、小柄なスン・イも印象的だったが、金メダルを手にしたのは、お手本のようなグラン・パ・クラシックを踊ったオーストラリア・バレエ学校のハナ・オニールだった。ニュージーランドから参加の石井杏奈は、美しく精確なエスメラルダ。銀メダルを受賞したツァオ・ワン・ティンが選んだのもグラン・パ・クラシックだが、オニールがいともやすやすと高度な技術をこなしていたのには及ばなかった。この部門最後の出場者は北野友里夏、流れのよいサタネラのヴァリエーションだった。

男子では、コロンビアの16歳、ホアン・セバスチャン・ザモラが、ドン・キホーテのヴァリエーションの最後をじつに巧緻に締めくくって銀メダルを獲得。ロシアのデイミトリ・ピャコフはやや運に恵まれず、サタネラを泳ぐように踊りこなしながら最後に足を滑らせてしまった。にもかかわらずトップ12に入ったのは立派で、ナポリでの宙に浮くような跳躍が魅力的だった木ノ内周、ドン・キホーテで精度の高いフィニッシュを見せたアーロン・スミス、パリの炎をシャープに踊ったフランスのフィリップ・ソーノも入賞を果たした。宮川新太はラ・シルフィードのジェイムズのヴァリエーションですばらしいバットゥリーを披露し、ジョン・スク・パクはクリーンなCoppéliaのソロで、ともに銅メダル受賞にふさわしい踊り。グランプリ受賞はお手本のようなジークフリードのウィリアム・ブレイスウェルだったが、多くの人が一番夢中になったのは、ベルギーのエド・ワイジェンだったかもしれない。コンクールでは珍しいエスメラルダの男性ヴァリエーションを選んだ彼は、そのパーソナリティと生氣あふれる踊りで、金メダルと本誌選出の芸術賞を獲得した。